

最後の晩餐の席での主イエスの言葉が続いている。ここで「あなたがた」と言われているのは、主イエスの弟子たちのことである。つまり、主イエスを信じる群れ、教会に向けての言葉である。

1節. 「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。」

【TEV】 "I am the real vine, and my Father is the gardener.

エゴ・エイミ (Ἐγώ εἰμι, I am, わたしは・・・である) から始まっている。

2節. 「わたしにつながっているが、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。」

「わたしにつながっているが」とは、枝がぶどうの木の一部となっていることが前提されている。伊吹氏は「わたしのうちにある枝」と訳し、新共同訳よりも「内にいる」と訳した方が良いという。【NKJV】 【TEV】 every branch in me. 【新改訳】 「わたしの枝」。

「つながっているが」と訳されている言葉は、原文では前置詞「エン、ἐν (中に、に)」だけ。「わたしのなかの枝」が直訳。

ここでの結ぶべき「実」とは、「愛」 (9節以下参照)。

「取り除かれる」ことも「手入れをなさる」ことも、剪定であり、それらはぶどうの枝が実を豊かに実らせるための作業である。つまり、取り除く (切り捨てる) ことが目的ではなく、多くの実を実らせるためである。

3節. 「わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。」

「清くなっている」の「清い」と訳されている言葉 (καθαρός, カタロス) は、ヨハネによる福音書では4回しか出て来ない。13章10節で2回、同じく11節で1回、そしてこの3節。「わたしの話した言葉」とは、これまで語られたすべての言葉。特に直前の13章34節や14章15、21、23節などの愛についての言葉、掟。

「『既に清い』とは、イエスの語った言葉が聞き受けとられ実行されることを意味していよう。」 (伊吹)

4節. 「わたしにつながっていないさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていないならば、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていないならば、実を結ぶことができない。」

この節の「つながる」は、原語では「μένω、メノー」で「とどまる」という意味。これはヨハネによる福音書の著者が愛用している言葉 (38回使用。マタイ3回、マルコ2回、ルカ7回)。1章38、39節で「泊まる」と訳されている言葉が同じ言葉である。

38 イエスは振り返り、彼らが従って来るのを見て、「何を求めているのか」と言われ

た。彼らが、「ラビ——『先生』という意味——どこに泊まっておられるのですか」と言うと、39 イエスは、「来なさい。そうすれば分かる」と言われた。そこで、彼らはついて行って、どこにイエスが泊まっておられるかを見た。そしてその日は、イエスのもとに泊まった。午後四時ごろのことである。

主イエスの言葉を聞いて、主イエスのところに留まる。それゆえに「あなたがたは既に清くなっている」と言われている。

「わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている」

【NKJV】 "Abide in Me, and I in you. 【TEV】 Remain united to me, and I will remain united to you.

「『わたしのうちにとどまりなさい。そしてわたしもあなたたちのうちに止まる』の『そして』は、『わたしのうちに止まれば、そうしたら』という条件的なものではない。」（伊吹）

岩波訳「私のうちに留まりなさい。そうすれば、私もあなたがたのうちに（留まる）」

フランシスコ会訳「わたしの内に留まっていなさい。そうすれば、わたしもあなたたちの内に留まっている」

原文では、「そうすれば」という言葉はなく、「留まりなさい わたしの中に、わたしもあなたがたの中に」となっている。

「枝はすでにぶどうの木に止まっているのである。」（伊吹）

一般的に「ぶどうの枝が、木につながっていなければ、自分では実を結ぶことができない」ことを通し、そのように「まことのぶどうの木」である主イエス御自身に「つながっていなければ、実を結ぶことができない」ことを主イエスは語る。

「この『止まる』という語は止まっても実を結ばなかったということの可能性を否定している。そして『止まる』ということは実を結ぶことへ向かって述べられている。μένωという語は、4—16節までに11回（4節で3回、5, 6, 7節で各2回、9, 10節で各2回、16節）使われ、全体を貫通する動詞となっている。すなわちぶどうの木と枝の関係として、実を結ぶことに最も本質的な前提となっている。」（伊吹）

5節. 「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」

【TEV】 "I am the vine, and you are the branches. Those who remain in me, and I in them, will bear much fruit; for you can do nothing without me.

「ぶどうの木」とは、幹と枝からなっている。そして幹と枝は一つである。順番からすると、幹を通して養分が枝の先々まで運ばれる。枝は幹から勝手に離れていくことはできない。ここでは「わたしなしには」という岩波訳や【TEV】、【NKJV】の方が理解をしやすい。弟子たちは主イエスの許に留まって、ぶどうの木である主イエスから養分をいただき続けることを通して初めて実を結ぶ、それも豊かに結ぶことができる。